

ダミノジッド水溶剤散布によるシクラメンのわい化効果の検討

～シクラメンの草姿を改善～

松野 純子（豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課）

【2021年12月執筆・2024年2月掲載】

【要約】

草姿改善を目的として、シクラメン「ミルキーガール」にダミノジッド水溶剤（有効成分ダミドジッド85%、商品名：キクエモン）の散布処理を行った。散布時期の試験では、8月散布は無処理と比較して株幅が小さくなったが、9月散布の株幅は無処理と同程度であった。散布回数の試験では、1回散布及び2回散布ともに無処理区よりも株幅が小さくなったが、1回散布と2回散布の株幅は同程度で、有意差は認められなかった。

以上のことから、シクラメンに対して8月上旬にダミノジッド水溶剤を1回散布することにより草姿が改善できることを明らかにした。

1 はじめに（目的）

シクラメン栽培は、高温による生育抑制を回避するため、夏季に遮光を行っている。近年では、遮光率を上げ温度低下を図る傾向にあるが、強遮光下では葉柄が徒長するため、草姿が乱れ、品質の低下が問題となっている。そこで、草姿の改善を目的とし、わい化効果の高いダミノジッド水溶剤（有効成分85%、商品名：「キクエモン」）の散布時期及び散布回数を検討した。

2 展示概要、調査方法

【試験1】 散布時期の違いがシクラメンの生育及び開花に与える影響

試験区は、8月散布区（8月11日散布）、9月散布区（9月24日散布）、無処理区の3区とした。300倍に希釈したダミノジッド水溶液を、ハンドスプレーで5号鉢に鉢上げした株全体に7ml/株を散布した。調査項目は、株幅¹⁾、株高²⁾、総花蕾数、着色花蕾数とした。8月27日及び9月29日に葉組みリングを設置した。その後の葉組み及び葉柄の抜き取り作業は、農家の慣行により行った。

1) 株幅：株の長径の幅

2) 株高：地際から一番高い葉までの高さ

【試験2】 散布回数の違いがシクラメンの生育及び開花に与える影響

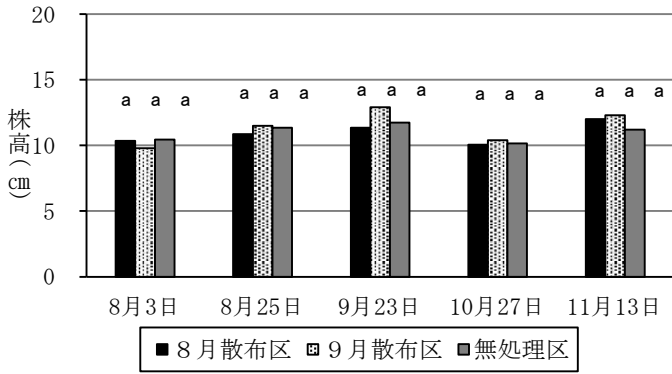
試験区は、1回散布区（8月11日散布）、2回散布区（8月11日、9月24日散布）、無処理区の3区とした。散布濃度、散布方法、調査項目は試験1と同様とした。

3 結果

【試験1】 散布時期の違いがシクラメンの生育及び開花に与える影響

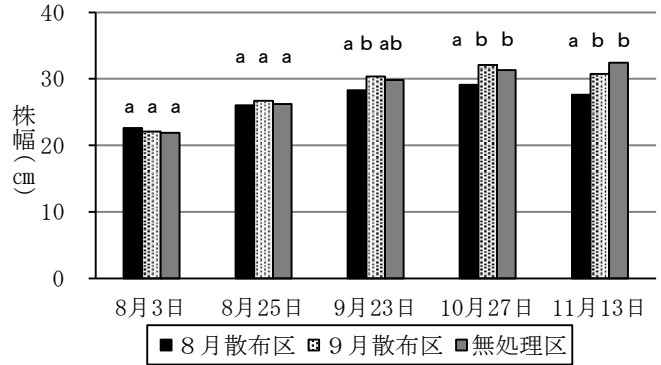
ダミノジッド水溶剤散布処理3日後に、散布した株を観察したところ、葉害は認められなかった。試験区間で、株高、総花蕾数及び着色花蕾数に有意差はなかった（図1、図3、表1）。10月27日及び11月13日の株幅調査では、8月散布区は、無処理区と比較して、

有意に株幅が小さくなったが、9月散布区は、無処理区と同程度であった(図2、図3)



異符号間にTukeyの多重検定により5%の有意差あり。

図1 ダミノジッド水溶剤散布時期の違いがシクラメンの株高に与える影響



異符号間にTukeyの多重検定により5%の有意差あり。

図2 ダミノジッド水溶剤散布時期の違いがシクラメンの株幅に与える影響

表1 ダミノジッド水溶剤散布時期の違いがシクラメンの開花に与える影響

単位：個

試験区	総花蕾数	着色花蕾数
8月散布区	23.5 a	14.0 a
9月散布区	20.2 a	13.3 a
無処理区	20.9 a	10.7 a

異符号間にTukeyの多重検定により5%の有意差あり。

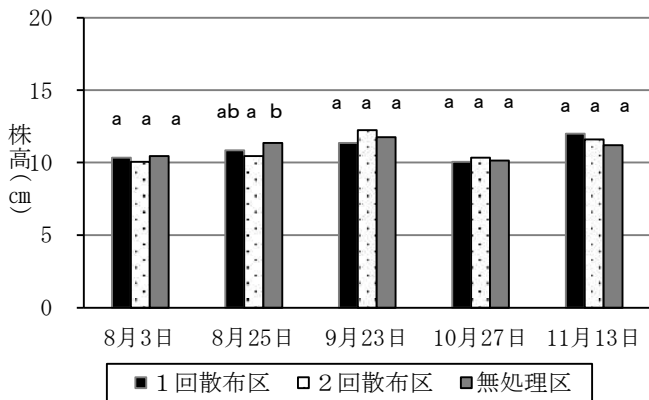


図3 出荷直前の草姿 (11月13日撮影)

左から、無処理区、8月散布区、9月散布区

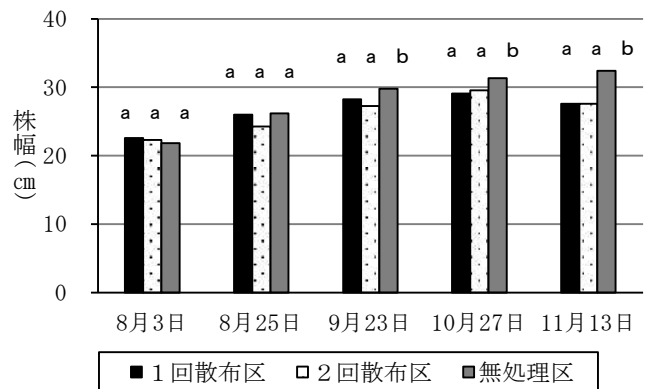
【試験2】 散布回数の違いがシクラメンの生育及び開花に与える影響

ダミノジッド水溶剤散布処理3日後に、散布した株を観察したところ、薬害は認められなかった。試験区間で、株高、総花蕾数及び着色花蕾数に有意差はなかった(図4、図6、表2)。株幅は、1回散布区及び2回散布区ともに、9月23日の調査以降、無処理区よりも小さかったが、1回散布区と2回散布区の間には有意差はなかった(図5)。



異符号間にTukeyの多重検定により5%の有意差あり。

図4 ダミノジッド水溶剤散布回数の違いがシクラメンの株高に与える影響



異符号間にTukeyの多重検定により5%の有意差あり。

図5 ダミノジッド水溶剤散布回数の違いがシクラメンの株高に与える影響

表2 ダミノジッド水溶剤散布回数の違いがシクラメンの開花に与える影響

単位：個		
試験区	総花蕾数	着色花蕾数
1回散布区	23.5 a	14.0 a
2回散布区	23.7 a	16.3 a
無処理区	20.9 a	10.7 a

異符号間にTukeyの多重検定により5%の有意差あり。



図6 出荷直前の草姿 (11月13日撮影)

左から、無処理区、1回散布区、2回散布区

4 まとめ (考察)

試験1の結果から、ダミノジッド水溶剤を1回散布する場合、8月上旬散布は株幅が小さくなりわい化効果が得られるが、9月下旬散布はわい化効果が得られにくいことが明らかになった。9月下旬は葉組リング設置期間中で、株の中心部まで光が当たるようになり、葉柄の伸長が抑制される。そのため、無処理区も葉柄の伸長が抑制され、9月下旬散布は、わい化効果が得られなかったと考えられた。試験2の結果から、1回散布区、2回散布区ともに無処理区よりも株幅が小さくなったが、散布区間で有意差は得られなかった。2回散布区は、試験1と同様に9月下旬の2回目散布でわい化効果が得られず、1回散布区と同程度の株幅になったと考えられた。なお、株高が10月27日に一時小さくなった(図1、図3)のは、9月24日に葉組リングを付けたためであり、ダミノジッド水溶剤のわい化効果ではないと考えられた。

※地域や品種によって処理適期が異なると思われるため、ダミノジッド水溶剤の使用には注意を要する。